

和歌山病院での実習を終えて



杉原 悠斗

今回、呼吸器内科の実習のうち2日間和歌山病院で実習させていただきました。印象に残ったことをいくつか書かせていただきます。

初日はまず結核についてのセミナーがあり、実際に結核患者さんが入院している病棟へ行かせていただきました。結核の感染様式や、それによる医療者側、患者側の防御対策について、勉強してわかっているつもりでも、やはり実際に体験してみるとN95マスクのしんどさや、陰圧をかけるための風の動きなど新たに学ぶことがたくさんありました。

南方先生によるレントゲンの読影の講義では、レントゲンのどこに注目すればいいのかをはっきりと教えていただき、レントゲンを読むハードルが少し下がったように感じました。これから何枚も見えていく中でどんどん読影レベルを上げていきたいと思います。ブロンコ体操を利用しながらの問題の解説もとてもわかりやすく、国試の肺区域を選択肢とした問題が今まで苦手でしたが、あれからは解くのがとても面白くなりました。

初日の夜は南方先生に晩御飯に連れて行っていただきました。お酒を交えながら、御坊の伝説や和医大呼吸器内科ができた経緯などの話を聞くことができとても楽しかったです。自分の地元である和歌山のことをもっと知り、そして一度外の世界を見てみることも大事なのだと感じました。

和歌山病院の先生方、職員の方々、充実した2日間を過ごさせていただきありがとうございました。また研修で行かせていただくことがありましたらその時もよろしくお願ひします。